文化

世界驚かした江戸の絵本

◇単純な線で本質描く 憲斎の「略画式」を仏で復刻出版◇

クリストフ・マルケ

日本美術史の研究者として、憲斎を調べれば調べるほどその作風にひきつけられた。ジャポニスム（日本趣味）が隆盛を誇っていた19世紀後半から20世紀初頭にかけてのフランスで、憲斎がいかに人気があったかも分かってきた。

昨年フランスで「略画式」を復刻出版したところ人気を集め、40ユーロ（約4000円）という値段にもかかわらず、発行部数は4000に達した。200年以上たった今でも、専門家だけでなく多くの人が憲斎の絵に感動する。そのことをとてもうれしく思っている。

学生時代に私は西洋美術史を勉強したが、それだけでは物足りず、日本の美術や文学も調べはじめた。日本に留学して、明治の洋画家・浅井忠や俳人・正岡子規が、江戸時代の絵本を通じて美術に親しんでいたことも知った。

関心が江戸の和本に移ると、フランスにも各地に和本の立派なコレクションがあることが分かってくる。ジャポニスム全盛時代の収集家や画商が、浮世絵だけでなく和本も数多く集めていたのである。

木版摺りの和本は一冊一冊の出来が違う。なかにはフランスのものが天下の孤本であったり、世界中で一番状態がいいという例もあった。ただ、ほとんど研究する人もないまま死蔵されていたのが実情だった。

そうした「宝の山」を調査していくうちに、憲斎の「略画式」に出合った。今まで見た浮世絵と人物や動物の本質をとらえた。動きのエッセンスが見事に写し出されている。子どもの絵のようにみえて難しい。

18世紀末の江戸の出版界は競争が激しかった。おそらく、独特の画風を作り上げたいと考えていた憲斎の意志に加え、新しい絵本で世を驚かせたいという版元の意向も反映して「略画式」は誕生したのだろう。

ジャポニスムの時代のフランスでは、憲斎は北斎の先駆者として美術の世界でしばしば話題になっていた。彫刻家のロダンも関心を持ち、「略画式」も持っていた。人の動きをどう絵にするかにも力を入れていたロダンは、ここまで省略できるという新たな可能性に衝撃を受けたに違いない。

もう一人、当時憲斎に夢中になったのがイザークという木版画家だ。彼は憲斎の版木を手に入れ、パリの工房で試し摺りまでしていた。自分用の便箋などに憲斎の作品を図柄として摺り込むほどだったから、ほれ込みようがうかがえる。

実はこの版木の一部が昨年、パリでオークションに出された。今は日本に里帰りし、私も参加して実践女子大学で研究が進められている。版木は9月に同大学で展示される予定だ。

イザークは1910年、ロンドンで開かれた日英博覧会に出向き、日本から来て浮世絵の実演をした版画職人の漆原由次郎に技術を学んでフランスに紹介した。ここからは私の推測だが、イザークは彼を通じて憲斎の版木を入手したのではないかと考えている。

□○□

古びることない楽しさ

手づくりの和本は、中身だけでなく本そのものがオブジェとして貴重だ。匂い、感触、摺り、すべてが相まって、江戸の出版文化、本の素晴らしさを今に伝えている。

残念ながらフランスでは木版摺りの和本のままつくり直すことはできない。復刻版は「人物略画式」「鳥獣略画式」の2冊を表紙から奥付まで厚手の紙にほぼ原寸でオフセット印刷し、折り本に仕上げたのが工夫だ。印刷は中国にある凸版印刷のグループ会社に頼み、私が「18世紀末のグラフィック革命」という題で解説を書いた。

憲斎の絵が見ていて楽しいのは昔も今も変わらない。その楽しさは古びることなく、世界中だれにでも通じると確信している。（日仏会館フランス事務所長、仏国立東洋言語文化研究院教授）

省略したごく単純な線で人や動物をユーモラスに描く。日本でそうした絵といえば、漫画の起源とされる「鳥獣人物戯画」が思い浮かぶだろう。江戸期なら葛飾北斎の「北斎漫画」も有名だ。

□○□

北斎漫画より20年前に

しかし「北斎漫画」が世に出る20年前、18世紀の終わりに「略画式」と呼ばれる傑作を出版した絵師がいたことは、日本人もあまり知らない。鍬形蕙斎、別名北尾政美である。

人気を集めた「略画式」の復刻版

や、最新のガスコンロは、当時の庶民の実生活からはかけ離れていたかもしれない。それでも、大正期には大都市部を中心に、一般家庭用のガス供給網が整備され、風呂やコンロなどの専用機器も普及し、家庭生活が一段個性的で変化に富んでいる。ポスターが時代を映す鏡である要因は、それを飾った女性たち自身が、時代を如実に表す存在であったからにほかならない。（1924年、76・0×53・0センチ、函館市中央図書館蔵）

くかが今後の課題となる。

法律は文化芸術を継承、創造、発信する劇場を地域コミュニティー

し業務で手いっぱい」「経済的に余裕がない」という声があり、2つては多様な意見が出そうだ。「貸策の再構築を促すことになるだろう。規制するのではなく、活力を引き出す知恵が求められる。

はまったく次元の違う絵に驚いた。

□○□

ロダンも関心を示す

憲斎は1764年に江戸の畳屋に生まれ、15歳で浮世絵師としてデビューした。江戸で御用絵師になったが、彼の真骨頂は絵本作家として描き上げた略画式である。

歌麿の美人画に代表される浮世絵が細かな技術を競ったのに対し、憲斎は極端に単純化した線で

交遊抄

作家の上坂冬子さんが亡くなってから三年になる。晩年、仕事の関係で数年つき合わせていただいた。彼女は公務員の家庭に育ち、十人兄妹だったから、戦後の食糧難の時代もたくましく生きてきた。負けず嫌いで、喧嘩してやめてしまった。仕事と同様、生活も自分流のやり方を通す人だった。

その彼女が病気になった。すぐに病院に見舞いに行ったが、病室で私の顔を見たとたん「あんた、何しに来たの？」と言われた。自分より一回りも下の若造に、同情されたく